

<注意事項・主要なJ T U競技規則とローカルルール>

【新型コロナウイルス感染症感染防止対策についてのお願い】

本大会は、「JTU競技規則」、「WT競技規則」、「本大会ローカルルール」に基づき、新型コロナウイルス感染症対策としての「スポーツ活動再開ガイドライン」に沿って開催致します。内容をご確認頂き、新型コロナウイルス感染防止にご協力をお願い致します。

(<https://www.jtu.or.jp/hjueuewohu83kjd/>)

選手の皆さんについては競技中のマスク着用は除外されますがそれ以外の時はマスク着用をお願いします。競技の際は直前までのマスク着用をお願いし、必要時は大会側からマスクをお渡しいたします。また、リタイア時など、コース定点の審判員がマスクを用意していますので歩行の場合は着用してください。また、エイドステーションでのボトルの回収について設置のゴミ箱への投入をし、沿道への投げ捨てをしないようにご協力ください。

【寒さ対策についてのご協力のお願い】

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、アスリートラウンジ、リカバリーエリアなどのテントでは換気を実施しております。また、なるべく滞在時間を短く(15分程度を目安)していただき、また感染防止対策をお願いするため、テント内が十分に寒さ対策が取れない可能性があります。ご自身での着替えや上着の十分な用意などについて対策をいただけることをお願いいたします。

<注意事項・主要なJTU競技規則とローカルルール>

【ユニフォームチェックについて】

2021年12月20日23:59までの間にユニフォームの写真を撮影し フォームズ（下記URL）で
ご申告をお願いします。

第18回 日本デュアスロン選手権（2021/東京・台場）

ユニフォーム&バイクチェック等事前申告フォーム

<https://ws.formzu.net/fgen/S84957771/>

大会当日に事前申告と異なったユニフォームになった場合は申告してください。
撮影の際にはA・B・C・D・E・Fのロゴがはっきりわかるように撮影してください。
お送りいただいた写真はユニフォームチェックにのみ利用します。

<<ユニフォームのロゴ等の記載の注意事項>>

- ・ 前面・後面にネーム（苗字）を表記すること（2014年から義務化とする）
- ・ JPN 表記部分に個別スポンサー表記可（JPN でも可）
- ・ ワールドトライアスロン・ロゴ部分に個別スポンサー表記可
（ワールドトライアスロン・ロゴでも可）
- ・ 上記 A～F のスペースにスポンサーロゴを表記できる。
（詳細はワールドトライアスロン競技ルールを確認のこと）
- ・ A スペースについて、その規定範囲を最大に利用して1社のスポンサー表記可とする。
- ・ World Triathlon Rankings 140 位以内選手（ランキング時点は大会毎指定）は、
F スペースもしくは A スペースに NTT ロゴ を表記。
- ・ 学校名、クラブ名の記載を希望する場合は、A～F のいずれか 1箇所を選択することができる。

JTU競技規則)https://archive.jtu.or.jp/jtu/pdf/rulebook_20190123.pdf

（日本選手権等におけるユニフォーム）

第42条 日本選手権及び世界並びにアジア選手権選考大会におけるユニフォームへの表記は、
第41条の規定を準用する。

（JTU競技規則 附則 F1：ユニフォーム規則も参照のこと）



- ・ Aスペース：最大高さは 20cm 最大幅は15cm
- ・ Bスペース：最大高さは 4cm 最大幅は 5cm
- ・ Cスペース：最大幅は 5cm 最大高さは 15cm
（側面に標記）
- ・ Dスペース：最大高さは 4cm 最大幅は 5cm
（左右どちらか一方）
- ・ Eスペース：最大高さは 10cm 最大幅は 15cm
- ・ Fスペース：最大高さは 5cm 最大幅は 15cm

<注意事項・主要なJTU競技規則とローカルルール>

【ヘルメット・キャップのロゴ等について】

<ヘルメット>

- ・ヘルメットメーカーのロゴは、前面では30平方cmが1カ所、または20平方cmのロゴを両側に付けることができる。他のスポンサーロゴをヘルメットに表示することはできず、これらの禁止ロゴをステッカーで覆うことも許可されない。
- ・大会が提供したヘルメットナンバーステッカーは、**変造しない**で、ヘルメットの正面と両サイドに付ける。他のステッカー類を貼り付けることは禁止する。
- ・ヘルメットナンバーステッカーの周囲に1.5cm以上のすき間を設ける。

<バイク>

- ・バイクには、自転車関連製品のロゴだけを競技者のバイクに表示できる。
- ・大会が提供したバイクステッカーは**変造しない**でバイクの左サイドに付ける。他のステッカー類を貼り付けることは禁止する。

<ランキャップ・バイザー>

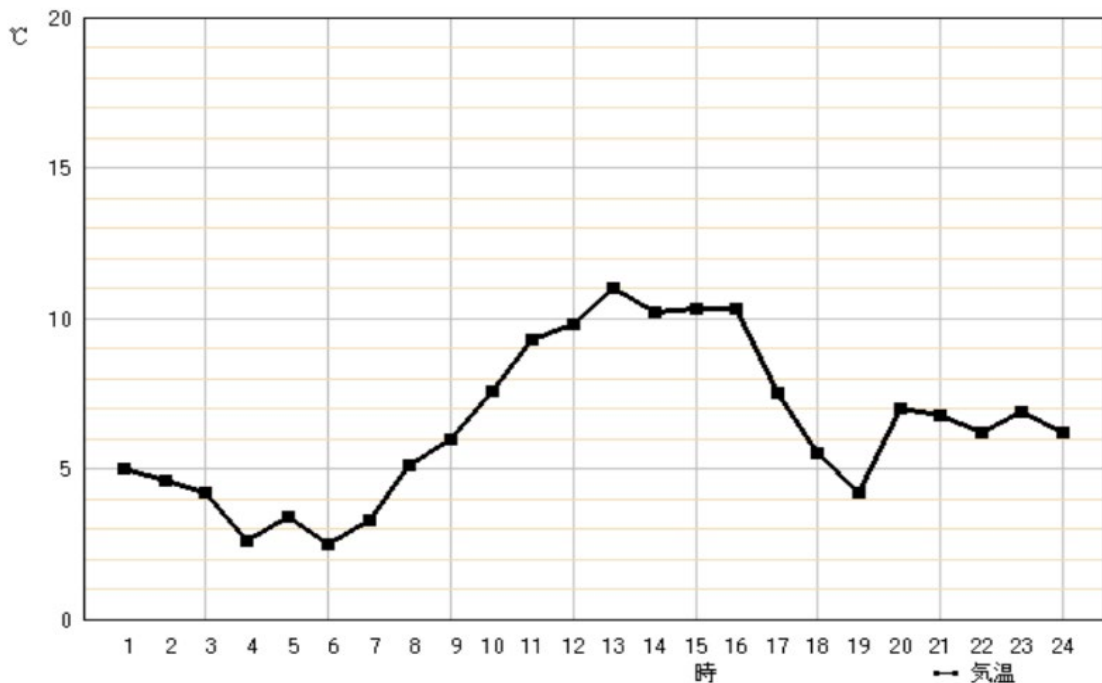
帽子やバイザーには、スポンサーロゴは1つだけ表示できる。
(最大縦4cm、最大総面積20cm²)

<アームカバー・レッグウォーマー・長袖等の防寒ウェア>

- ・寒冷の気象状況が予想されるため(2020年の同日7:30 気温3°C 12:00 気温10°C) 防寒のためアームカバー・レッグウォーマー・長袖等のウェアの着用を認める。ただし、ユニフォーム規定の適合のウェアを上に着用すること。またアームカバーはロゴ等がないものとする。(レース中の脱着は不可)

参考：2020年12月26日の気温 (気象庁HP：<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>)

江戸川臨海 2020年12月26日 (1時間ごとの値) 気温



<注意事項・主要なJTU競技規則とローカルルール>

【バイクチェックについて】

ユニフォームチェックと同様に12月20日23:59までの間にフォームズでチェックをして送ってください。

第18回 日本デュアスロン選手権 (2021/東京・台場)

ユニフォーム&バイクチェック等事前申告フォーム

<https://ws.formzu.net/fgen/S84957771/>

大会当日に事前申告と異なったバイクの場合は当日申告してください。

ヘルメットはひび割れ、劣化、ストラップ、認証ステッカー等を現地で目視確認します。

<バイク>

- ・バイクは全長 185cm 以内、幅 50cm 以内であること。
- ・チェーンホイール軸の中心は、地面から 24cm 以上 30cm 以内であること。
- ・チェーンホイール軸を通る垂直線と前輪軸の中心を通る垂直線の間隔は、54cm 以上 65cm 以内であること。
- ・サドルポジションは次のとおりとする。
- ・サドルの最先端部に触れる垂直線は、チェーンホイール軸の中心を通る垂直線の後方、男子は 5cm 以上、女子は 2cm 以上とし、競技中にこれらのラインを超えてサドルを調整してはならない。
- ・大腿骨（だいたいこつ）から脛骨（けいこつ）の割合は 56% から 44% 程度であるが、この割合が 50 対 50 に近い場合は、特例措置を受けることができる。
(今大会で該当の選手でサドルポジションの特例措置を提出していない選手にはワールドトライアスロン大会での届け出について指導する場合があります。)

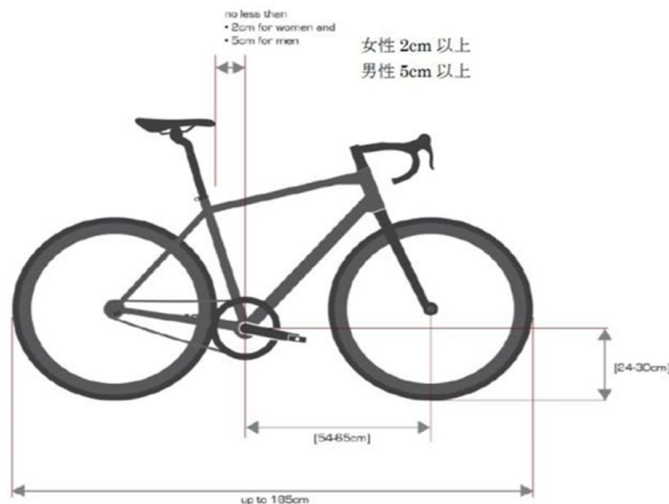
【<ハンドルバーとブレーキ> (JTU 競技規則第 94 条 抜粋)

ハンドル形状は、ドロップハンドルを基本とする。

- ・伝統的なドロップハンドルとし、ハンドルバーの先端をふさがなければならない。
- ・クリップオンハンドルバーは、ブレーキレバーの最前部を超えてはならない。
- ・クリップオンハンドルバーの前方の両先端は、市販の硬質ブリッジでつながれているか、双方が接触していなければならない。
- ・ブレーキレバー、ギアレバーは、クリップオンハンドルバーに取り付けることはできない。
- ・クリップオンハンドルバーの最高部と最低部の差は 10cm を超えてはならない。
- ・ウォーターボトルとそのホルダーは、ハンドル又はクリップオンハンドルバーへの取り付けを禁止する。

<ディスクブレーキ>

- ・使用可とする。



<注意事項・主要なJTU競技規則とローカルルール>

【ヘルメット】

- ・着用するバイク競技用硬質ヘルメットは、次に掲げる基準に適合したものを奨励する。
 - (1) Snell Memorial Foundation スネル記念財団
 - (2) American National Standard Institute (ANSI Z90.4) 米国規格協会
 - (3) U.S. Consumer Product Safety Commission (16 CFR Part 1203) 米国消費者製品安全委員会
 - (4) CEN European Standard (EN1078) CEN 欧州標準
 - (5) The National Swedish Board of Consumer Policy スウェーデン消費者機構
 - (6) 公益財団法人日本自転車競技連盟 (JCF)
- ・ひび割れ、表面の不良及びストラップの不良などがあるヘルメットの使用は禁止する。
- ・ストラップ（あごヒモ）の変造（ゴム素材に代えるなど）やヘルメットの一部（外側の布カバーなど）を取り外すことを禁止する。

【ホイール及びホイールステーション】

ホイールはUCI承認の非伝統的ホイールリストに示されるホイールを使用することができる。（リストは、2016年1月1日以前承認のリスト及び2016年1月以降の承認リストの2種類）。このリストにないホイールは、次の基準を満たさなければならない。

- ・タイヤ部分を含めて、最大直径 70cm、最小直径 55cm。
- ・両方のホイールが同じ直径
- ・ホイールは少なくとも 20 本のスポークがあること。
- ・スポーク径は前後とも、最大 25mm まで。
- ・リムは合金でなければならない
- ・全ての部品は識別でき、商業的に入手できるものでなければならない。

<ホイールステーション>

2箇所のホイールステーション（ニュートラル、チーム）を設置します。

ニュートラルホイールステーションにて次のオフィシャルホイールを提供します。

- ・700C フロントホイール×4
- ・シマノ700C 11速リアホイール×4
- ・シマノ700C 10速リアホイール×2
- ・シマノ700C 11速ディスクホイール140mm×前後1セット
- ・シマノ700C 11速ディスクホイール160mm×前後1セット

（個人、チームホイールは WS-T のみ。）

スペアホイールを預ける選手は、女子7時00分～8時15分 男子 時 分～時 分に「ホイールステーション（WS-T）まで、レースNO・選手名（チーム名でも可但し、使用予定のレースNOを明記）を明記し持参してください。

競技終了後は速やかにピックアップをお願いします。

（競技用具の置き方 第1ラン・第2ランのシューズについて）

【トランジションエリア(JTU競技規則第7章第77条6)】

・デュアスロン競技の第2ランで同じシューズを使用する場合、トランジションエリアの用具入れに入れる必要はなく、また、ラン用シューズ1組は、競技中常に地面に置いておくことができる。この場合において、ラン用シューズは用具入れ(ラックナンバー/名前プレート)の0.5m以内に置くものとする。

＜注意事項・主要なJTU競技規則とローカルルール＞

【バイク乗降車について（JTU 競技規則第 83・84 条）】

（バイク乗車方法）

第 8 3 条 バイクの乗車は、選手の片足が乗車ラインを越えた後に、完全に片足が地面についてから乗車しなければならない。

2 乗車ラインを通過してからもバイクを押して走ることができ、乗車ラインを越えた直後に乗車しなくてもよい。

（バイク降車方法）

第 8 4 条 バイク降車は、降車ライン手前の地面に、片足が完全にについてから降車しなければならない。

【ペナルティ（JTU 競技規則第 10 章）】

・トランジション以降でのペナルティは、第 2 ランコース上の進行方向トランジション出口先交差点に設置されたペナルティボックスで適用されます（10 秒の停止）ラン競技中に選手自ら確認して入ってください。手順、違反コードの表示等は以下の通りです。

・ペナルティを受けた選手のレースナンバーは、ペナルティボックスの掲示板に表示されま

す。

・複数のペナルティではレースナンバー×回数とペナルティの文字コードを表示（下記参照）

・M：乗車ライン違反/Mount Line Violation

・D：降車ライン違反/Dismount Line Violation

・E：用具の格納違反/Equipment Outside

・L：用具、ゴミ等の不当投棄/Littering Violation

・V：その他の違反/Other Violations

ボックスに入らなかった場合は失格（DQ）となります。

【周回遅れ等対応】

・先頭の選手がバイク競技を開始してからCP2～CP5 地点までの間で第 1 ラン競技中の選手はラン競技停止（DNF）となります。（次ページのコース図参照）

・バイク競技（4 周回）で周回遅れとなった選手は競技停止（DNF）となります。

※ 周回遅れとなった選手は、審判の指示に従い安全に十分注意して速やかに歩道に上がり歩道上を徒歩にて会場まで戻って下さい。審判がエマージェンシーシートを所持していますので体温保持をしてください。審判がマスクを渡しますので必ず使用してください。

・第 2 ラン競技では DNF 適用はありませんが、周回遅れとなった選手は、先頭ランナーとの併走を避け、早い選手の走路を塞がないように走行してください。

【コース等の把握（JTU 競技規則第 30 条）】

競技者は、コース及び競技環境を事前に把握し、かつ、自らの責務でコースを確認して競技するものとします。※ 公式バイク試走は有りません。

交通規則を順守し事前に個々でコースの確認をお願い致します。

<注意事項・主要なJ T U競技規則とローカルルール>

【周回遅れ等対応】

- ・ 先頭の選手がバイク競技を開始してからCP2～CP5地点までの間で第1ラン競技中の選手はラン競技停止（DNF）となります。

